

# 蘭牟田池ラムサール条約

## 湿地登録20周年



2005(平成17)年11月8日に条約湿地に登録された蘭牟田池は、周囲を標高450〜500m前後の外輪山に囲まれた火口湖です。火口湖とは、火山の噴火で陥没した部分に雨水などがたまってできた湖で、カルデラ湖とも呼ばれています。

蘭牟田池の西側の3分の1は湿原化しており、多数の泥炭質の浮島が見られます。この浮島は、イネ科やカヤツリグサ科の植物が枯れて完全に腐らずに堆積し、炭化したものです。北方の寒冷な高層湿原ではしばしば見られますが、低層湿原では極めて珍しいことから「泥炭形成植物群落」として国の天然記念物に指定されています。

### ラムサール条約とは

正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」です。1971(昭和46)年にイランのカスピ海湖畔にあるラムサールという町で採択されたことから、「ラムサール条約」と呼ばれています。

現在は水鳥の生息地だけでなく、広く生態系にとって重要な湿地を保全するための国際条約となっています。また、湿地の保全だけでなく、世界的に認知された湿地を上手に活用していくという「賢明な利用(ワイズユース)」も提唱されています。

### 希少なベッコウトンボ

池の西側にある湿原は、絶滅が危惧されるベッコウトンボをはじめ、たくさんのトンボの産卵や羽化の場として、とても貴重な場所になっています。

ベッコウトンボは、体や羽の色がその名のとおりベッコウ色であることが特徴です。しかし、ベッコウ色なのはヤゴから羽化してトンボとなった未熟な時期だけで、成熟すると黒色になります。

蘭牟田池のベッコウトンボは4月中旬頃から6月下旬頃に見られますが、最も多く見られるのは4月下旬から5月上旬です。



▲ Google マップ

標高：295m  
水深：約 3.5m(最大)  
面積：約 60ha

# 湖と山が織りなす 四季折々の自然美

11/9

記念フエスタとマルシェを  
合同開催！



ぐりぶーとつんも遊びに来たよ



写真展



たくさんのキッチンカーや出店が集まる



ステージ演奏



「色響」による環境コンサート



市長式辞



環境カウンセラーによる環境トーク



蘭牟田池ラムサール条約湿地登録20周年記念



オープニング歌と三味線の演奏)



蘭牟田池環境宣言



# 蘭牟田池ラムサール条約湿地登録20周年記念

# フェスタ応援アンバサダーにインタビュー！

## アンバサダー就任時の思い

最初は勝手に「蘭牟田池アンバサダー」と名乗って、好きという一心だけで始めた活動だったので、驚きと感謝の気持ちでいっぱいでした。

うれしさと同時に、これまで温かく受け入れてくださった地域の皆さん、そして「ずっきー」と笑顔で駆け寄ってくれる子どもたちの顔が浮かび、この素晴らしい薩摩川内市の魅力をしっかりと伝えていく責任に身が引き締まる思いでした。

## 蘭牟田池の魅力とは

私にとって蘭牟田池は、ただの「きれいな自然スポット」ではなく、「自分と向き合える場所」です。

火口湖を7つの外輪山が城郭のように囲む雄大な景色は、訪れるたびに日常を忘れさせてくれます。

子どもの頃は家族と訪れた「何でもできる特別な場所」でしたが、大人になって改めて訪れると、むしろ「何もなくてもいい場所」だと気付きました。蘭牟田池は、行くたびに新たな発見があります。そして、世代を超えて楽しめる薩摩川内市の宝物です。

## 今後の蘭牟田池の未来とは

ラムサール条約登録湿地としての「保全」と、地域のにぎわいを生む「賢明な利用」の両立が未来の鍵です。

未来を担う子どもたちが、大人になったとき、自信を持って「蘭牟田池は素晴らしい場所なんだ」と語れる未来の土台を、皆さんと一緒に作っていききたいです。

## おすすめの過ごし方

私の1番のおすすめは、あえて目的を決めずに、湖畔に座ってのんびり過ごすことです。特に、キャンプ場付近から眺める、風のない日の水面に映る「逆さ蘭牟田池」は、思わず息をのむ美しさです。ぜひ、自分だけのお気に入りの時間と場所を見つけてほしいです。

## 全国に蘭牟田池の名を広めたい！

現在、仕事の関係上県外で勤務しているため、蘭牟田池を訪れる機会が減ってしまいました。そこで、離れた場所からでも20周年を盛り上げようと蘭牟田池を広める活動をしています。

その名も、「ずっきーのラムサール条約湿地 国内54カ所ぜんぶ行く！」。いつものピンクのTシャツを着て行き、蘭牟田池を全身でアピールしています。現地では出会った方々との会話の中で、「今度、蘭牟田池に行ってみよう」と言ってもらえることにうれしさを感じています。



△イチ押しの写真  
(龍石からの景色)



**新村和樹氏**

鹿児島県庁に勤務。仕事とは関係なく、ほぼ毎週蘭牟田池に足を運び、蘭牟田池を盛り上げる取り組みを進める。

アンバサダー就任の目玉企画として、国内54カ所のラムサール条約登録湿地を巡って全国に蘭牟田池をPRするという前代未聞の旅へ。北海道のクッチャロ湖とサロベツ原野からスタートし、約半年で19カ所を訪ねた。



**松若隆幸氏**

撮影や釣り、ドローン操縦などを趣味とし、カメラとは高校時代から約50年間の相棒。

今はカメラ好きの仲間と「写活」をし、約10年前から蘭牟田池の四季を撮影する。市内の美しい風景をカメラに収め、県内で写真展を開く。



△イチ押しの写真  
(水面に映る蘭牟田池)



## 蘭牟田池の自然を広めたい！

今年6月に鹿児島で初となる「ヒメボタル観察会」と、10月には「アサギマダラ観察会」を企画し、開催しました。ヒメボタルは、川辺などの開けた場所ではなく、森林内などの人目につみにくい場所で発光する、あまり知られていない珍しいホタルです。ご覧になられたたくさんの方が感動されていました。アサギマダラは10月に本州から南の島への旅の途中に蘭牟田池に寄ってくれます。今年、約60頭のアサギマダラが栄養補給と羽を休めに寄ってくれました。



## おすすめの過ごし方

6月のヒメボタル、10月のアサギマダラの乱舞はぜひ体感してもらいたいです。また、サイクリングやボートなど、蘭牟田池の四季を近くで体感してほしいと思います。



△アサギマダラ